

平成30年～令和4年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人 川崎市文化財団
施 設 名	川崎シンフォニーホール (ミュージア川崎シンフォニーホール)
助 成 対 象 活 動 名	～音楽で人と人をつなぐ～ 音楽によるまちづくり推進事業
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	平成30年度 59,235 平成31年度 54,482 令和2年度 53,917 令和3年度 52,540 令和4年度 56,458 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名） ～音楽で人と人をつなぐ～ 音楽によるまちづくり推進事業

ミューザのミッション

「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして、音楽で  
すべての人がつながるまち～共生社会の実現～

を目指す

### 【頂点】

最高峰の音楽芸術の創造・発信

フランチャイズ・オーケストラとともに国際的レベルの音楽創造・発信を推進する

我が国のオーケストラ文化発展への貢献



### 【広がり】

音楽のすばらしさと演奏の喜びを味わう

コンサートへの市民参加の増加



### 【まちのシンボル】

「音楽のまち・かわさき」を国内外に発信  
音楽を通じてシビックプライドを高める

まちのシンボルとしての認知度向上



### 【未来】

子ども達の感性豊かな心の成長と豊かな人生

子どもたちが音楽と関わる機会の増大



### 【多様性】

多様性を認め合う社会、誰もが文化芸術に親しむ

コンサートに出かけやすい環境づくり

多様な人々による演奏参加機会の創出



(2) 令和4年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2022	2022年7月23日 (土) ~8月11日 (木・祝)	管弦楽：東京交響楽団、大阪フィル ハーモニー交響楽団、東京都交響楽 団、NHK交響楽団 ほか	目標値	24,000
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	17,054 (別途配 信 17,019 視聴)
2	ホールアドバイザー秋山 和慶企画	2022年4月9日(土)	指揮：秋山和慶、管弦楽：東京交響 楽団、司会：中井美穂、ゲスト：久 石 譲、三浦文彰	目標値	1,350
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	1,920
3	ホールアドバイザー小川 典子企画	2023年2月25日(土)	バリトン：寺田功治、ソプラノ：隠 岐彩夏(ゲスト出演)、ピアノ：小川 典子、ご案内：奥田佳道	目標値	600
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	506
4	パイプオルガン・コンサ ート・シリーズ	2022年10月1日(土) ~2023年2月18日(土)	パイプオルガン：三上郁代、大平健 介、石川=マンジョル 優歌、大木麻 理、トン・コープマン ほか	目標値	1,995
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	3,032
5	モーツァルト・マチネ	2022年5月28日(土) ~2023年3月4日(土)	指揮：原田慶太楼、小菅 優、ジョナ サン・ノット、小林壱成、管弦楽： 東京交響楽団 ほか	目標値	5,470
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	3,182
6	MUZA ジルベスターコンサ ート 2022	2022年12月31日(土)	指揮：秋山和慶、フルート：瀧本実 里、ハープ：後藤里緒、ヴァイオリ ン：荒井里桜、ピアノ：黒木雪音	目標値	1,300
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	1,534
7	専門的人事育成事業	通年	講師：加野 孝、松岡あさひ、水谷 晃	目標値	①10名 ②20名
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	42
8	若手演奏家支援事業	2022年7月12日(火)	オルガン：加藤慶子	目標値	出演 20名 入場 300 名
		ミュージア川崎シンフォ ニーホールほか		実績値	727

9	音楽大学フェスティバル・オーケストラ演奏会	2023年3月26日	指揮：井上道義、管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ（首都圏9音楽大学選抜メンバー）	目標値	出演者 200名 入場者 1,400名
		ミュージア川崎シンフォニーホール ほか		実績値	出演者 200名 入場者 1,400名
10	音の放課後プロジェクト； 人材育成部門	2022年4月～	ジュニア・プロデューサー（川崎市内小学生8名） ほか	目標値	112
		ミュージア川崎シンフォニーホール ほか		実績値	参加者① +②：42
11	音の放課後プロジェクト； 普及啓発部門	2022年5月3日（火・祝）～2023年3月29日（水）	オルガン：大木麻理 ファシリテーター：マイケル・スペンサー ほか	目標値	1,732
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	② 571 ②20+20
12	ミュージアの日 2022	2022年7月1日	指揮：秋山和慶、管弦楽：東京交響楽団 ほか	目標値	10,000 （内公演 1,500人）
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	6,536 （内公演 808人）
13	アウトリーチ公演事業	10/4（火）、10/5（水）	ピアノ：小川典子	目標値	①450名 ②600名 ③30名
		ミュージア川崎シンフォニーホール ほか		実績値	①126名 ②341名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

### (3) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2021	2021年7月22日 ～8月9日 ※	管弦楽：東京交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、N響メンバーによる室内合奏団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、東京ニューシティ管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団 ほか	目標値	25,000
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	17,107 (別途配信 16,800 視聴)
2	ホールアドバイザー秋山和慶企画	2021年4月3日 (土)	指揮：秋山和慶、管弦楽：東京交響楽団、司会：中井美穂、歌：岡幸二郎、吉岡小鼓音 ピアノ：奥田弦	目標値	1,300
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	1,307
3	ホールアドバイザー小川典子企画	2022年2月26日(土) ※	ソプラノ：市原 愛、ピアノ：小川典子、朗読：江原陽子、プレトーク出演：奥田佳道(音楽評論家)	目標値	600
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	391
4	パイプオルガン・コンサート・シリーズ	2021年10月2日 ～2022年2月19日 ※	パイプオルガン：デイヴィット・ティッターリントン(中止)、山口綾規、松居直美、廣江理枝、梅干野安未 ほか	目標値	1,995
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	2,077
5	モーツァルト・マチネ	2021年5月1日 ～2022年3月6日 ※	指揮：太田弦、鈴木優人、ジョナサン・ノット、井上道義 管弦楽：東京交響楽団 ほか	目標値	3,044
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	3,717
6	MUZA ジルベスターコンサート2021	2021年12月31日 ※	指揮：秋山和慶、ピアノ：牛田智大、ヴァイオリン：吉村妃鞠、チェロ：佐藤晴真、管弦楽：東京交響楽団	目標値	1,300
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	1,922
7	ミュージア・ワークショップ・インターン養成事業	通年※	アシスタント：澤田知世	目標値	インターン2/WS 20
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	アシスタント1

8	若手支援事業	通年※	オルガン：加藤慶子 ほか	目標値	出演 20/ 入場 300
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	出演 4/ 入場 130
9	音楽大学フェスティバル・オーケストラ演奏会	2022年3月26日※	指揮：下野竜也 管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ（首都圏9音楽大学選抜メンバー）	目標値	出演 200/ 入場 1,400
		ミュージア川崎シンフォニーホール ほか		実績値	出演 200/ 入場 744
10	【公演中止】ジュニア・オーケストラ育成	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響および、運営母体である昭和音楽大学と協議の結果、運営が困難であると判断し、中止となった。	目標値	出演 50/ 入場 500
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	
11	音の放課後プロジェクト；人材育成部門	2021年4月～ ※	ジュニア・プロデューサー（川崎市内小学生6名） ほか	目標値	112
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	50
12	音の放課後プロジェクト；普及啓発部門	2021年5月4日5日 ※	オルガン：大木麻理 ファシリテーター：マイケル・スペンサー ほか	目標値	1,732
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	420 (オンライン6)
13	ミュージアの日 2021	2021年7月1日 ※	指揮：秋山和慶 管弦楽：東京交響楽団 ほか	目標値	10,000 (内公演 1500)
		ミュージア川崎シンフォニーホール ほか		実績値	5,772 (内公演 1,078)

14	地域連携・アウトリーチ 公演事業	通年 ※	ピアノ：小川典子 ほか	目標値	①450 ②600 ③30
		ミューザ川崎シンフォ ニーホールほか		実績値	①403 ②350 ③27

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(4) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た!～	2020年9月19日 ※	歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た!～ 指揮・総監督：井上道義 演出：野田秀樹 アルマヴィーヴァ伯爵：ヴィタリ・ユシュマノフ、伯爵夫人：ドルニオク綾乃、スザナ（スザンナ）：小林沙羅、フィガロ（フィガロ）：大山大輔 ほか	目標値	1,200
		ミューザ川崎シンフォニーホール		実績値	514
2	GoGB プロジェクト	通年※	① 『歓迎ソング』 内容を変更して実施 ② マイケル・コリンズ クラリネット・ワークショップ【中止】	目標値	参加150、入場1,500
		ミューザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	70 (2700 視聴)
3	【公演中止】 ホールアドバイザー 秋山和慶 企画	中止	新型コロナウイルス感染症の影響により公演を中止した	目標値	1,300
		ミューザ川崎シンフォニーホール		実績値	0
4	ホールアドバイザー小川典子企画	2020年11月7日 (土) ※	ピアノ：小川典子、プレトーク：下田幸二	目標値	600
		ミューザ川崎シンフォニーホール		実績値	463
5	パイプオルガン・コンサート・シリーズ	2020年10月25日 ～2月20日 ※	パイプオルガン：デイヴィット・ティッターリントン（中止）、富田一樹、大木麻理 ほか	目標値	2,353
		ミューザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,084
6	フェスタ サマーミューザ KAWASAKI 2020	2020年7月23日 ～8月10日 ※	管弦楽：東京交響楽団、NHK 交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、読売日本交響楽団、群馬交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ほか	目標値	22,000
		ミューザ川崎シンフォニーホール		実績値	8,520 (33,609 視聴)
7	モーツァルト・マチネ	2020年5月23日 ～2021年3月6日 ※	管弦楽：東京交響楽団 指揮：井上道義（中止）、沼尻竜典 弾き振り：大谷康子、小菅優 ほか	目標値	4,800
		ミューザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,746
8	地域連携・アウトリーチ公演事業	通年 ※	ピアノ：小川典子 ほか	目標値	①450/②600/ ③30
		ミューザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	①160/②2,800 視聴/③4
9	ミューザ・ワークショップ・インターン養成事業	2021年2月14日※	マイケル・スペンサー ほか	目標値	インターン3/ WS20
		ミューザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	20 (オンライン)



番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
10	【事業中止】若手支援事業	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した	目標値	出演 20 / 入場 300
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	0
11	【公演中止】音楽大学フェスティバル・オーケストラ演奏会	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演を中止した	目標値	出演 200、入場 1,400
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	0
12	【公演中止】ジュニア・オーケストラ育成	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演を中止した	目標値	出演 50、入場 500
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	0
13	音の放課後プロジェクト； 人材育成部門	2020年4月～ ※	新型コロナウイルス感染症の影響により変更・中止した	目標値	112
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	22(オンライン)
14	音の放課後プロジェクト； 普及啓発部門	2020年4月～ ※	新型コロナウイルス感染症の影響により変更・中止した	目標値	1,732
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	49,715 視聴
15	MUZA ジルベスターコンサート 2020	2020年12月31日 ※	指揮：下野竜也 ナレーション・バリトン：宮本益光 ピアノ：小川典子 ヴァイオリン：南 紫音 管弦楽：東京交響楽団	目標値	1,354
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	864
16	ミュージアの日 2020	2020年7月1日 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により変更・中止した	目標値	10,000 (うち公演 1500)
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	1,089 視聴

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(5) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フランチャイズ・オーケストラ・プロジェクト ミュージザ川崎シンフォニーホール15周年記念事業	2019年10月5、6日	『シェーンベルク「グレの歌」』 指揮：ジョナサン・ノット 管弦楽：東京交響楽団 他	目標値	1,784
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	2,873
2	ホールアドバイザー 秋山和慶&佐山雅弘企画	2019年4月7日	指揮：秋山和慶 ヴァイオリン：服部百音 ヴォーカル：清水アキラ 他	目標値	931
		カルッツかわさき		実績値	1,038
3	ホールアドバイザー 小川典子企画	2019年9月28日	ピアノ：小川典子 トーク：高坂はる香	目標値	600
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	511
4	パイプオルガン・コンサート・シリーズ	2019年9月8日他	パイプオルガン：アルフィーロ・ガスト、大木麻理、青木早希 他	目標値	2,353
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	2,357
5	フェスタ サマーミュージザ KAWASAKI 2019	2019年7月27日～ 8月12日	管弦楽：東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団など合計10団体 他	目標値	28,000
		ミュージザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	27,278
6	モーツァルト・マチネ	2019年8月24日 他	指揮：沼尻竜典、ジョナサン・ノット、佐藤俊介、原田慶太楼 他	目標値	4,000
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	3,227
7	地域連携・アウトリーチ公演事業	2019年4月～ 2020年3月	ピアノ：小川典子 打楽器：Tuk-Pak 他	目標値	各回100
		川崎市立中央支援学校 他		実績値	1,156
8	ミュージザ・ワークショップ・インターン	2019年4月～ 2020年3月	講師：マイケル・スペンサー 他	目標値	36
		ミュージザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	27
9	若手支援事業	2019年5月～ 2020年3月	ピアノ：黒沼香恋 他	目標値	80
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	364
10	※公演中止 音楽大学フェスティバル・ オーケストラ演奏会	2020年3月28日	指揮：井上道義 管弦楽：音楽大学フェスティバル・ オーケストラ（首都圏9音楽大学選 抜メンバー）	目標値	1,390
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	0
11	ジュニア・オーケストラ育成	2019年4月～8月	指揮：江上孝則 管弦楽：かわさきジュニア・オーケ ストラ 他	目標値	700
		ミュージザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	795
12	音の放課後プロジェクト； 人材育成部門	2019年4月～ 2020年3月	ジュニア・プロデューサー（川崎市 内小学生12名） 他	目標値	112
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	151
13	音の放課後プロジェクト； 普及啓発部門	2019年5月4日 他	講師：マイケル・スペンサー オルガン：大木麻理 他	目標値	1,732
		ミュージザ川崎 シンフォニーホール		実績値	3,368

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	MUZA ジルベスターコンサート 2019	2019年12月31日	指揮：秋山和慶 ヴァイオリン：成田達輝 声楽：大山大輔、小林沙羅 他	目標値	1,354
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	1,452
15	ミュージアの日 2019	2019年7月1日	指揮：秋山和慶 管弦楽：東京交響楽団 司会：朝岡 聡 他	目標値	1,500 (10,000)
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	1,243 (12,875)
16	バリアフリー対応	2019年4月～ 2020年3月	各事業で実施	目標値	
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	
17	多言語対応	2019年4月～ 2020年3月	各事業で実施	目標値	
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	

(6) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	フランチャイズ・オーケストラ・オペラ・プロジェクト	2018年12月7日	歌劇「フィガロの結婚」指揮/ハンマーフルューゲル：ジョナサン・ノット 他	目標値	1,390
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,514
2	ホールアドバイザー秋山和慶 & 佐山雅弘企画	2018年4月7日	指揮：秋山和慶ピアノ：佐山雅弘 管弦楽：東京交響楽団 他	目標値	1,550
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,546
3	ホールアドバイザー小川典子 企画	2018年9月29日	ピアノ：小川典子	目標値	600
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	673
4	パイプオルガン・コンサート・シリーズ	2018年7月13日 他	パイプオルガン：トン・コープマン、松居直美、大木麻理 他	目標値	2,610
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	2,500
5	フェスタ サマーミュージザ KAWASAKI 2018	2018年7月21日～8月12日	管弦楽：東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団 他	目標値	28,000
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	25,584
6	モーツァルト・マチネ	2018年4月28日 他	指揮：高関 健 他管弦楽：東京交響楽団	目標値	4,000
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	3,802
7	スペシャル・ナイト・コンサート90	2018年5月9日 他	SLIDE MONSTERS (トロンボーン・アンサンブル) 他	目標値	1,521
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	2,668
8	ファシリテーター養成講座	2018年5月3日 他	講師：マイケル・スペンサー他	目標値	100
		ミュージザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	24
9	若手支援事業	2018年5月～8月	ピアノ：黒沼香恋他	目標値	100
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	432
10	音楽大学フェスティバル・オーケストラ	2019年3月31日	指揮：小林研一郎管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ (首都圏9音大選抜メンバー)	目標値	1,390
		カルッツかわさき		実績値	1,261
11	ジュニア・オーケストラ育成	2018年7月31日 他	指揮：江上孝則管弦楽：かわさきジュニア・オーケストラ 他	目標値	500
		ミュージザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	833
12	音の放課後プロジェクト；人材育成部門	2018年4月～11月	ジュニア・プロデューサー (川崎市内小学生12名) 他	目標値	100
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	363
13	音の放課後プロジェクト；普及啓発部門	2018年5月4日 他	講師：マイケル・スペンサー他	目標値	3,500
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	4,360
14	MUZA ジルベスター・コンサート	2018年12月31日	指揮：秋山和慶ヴォーカル：福井晶一、笠松はる他	目標値	1,354
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,958

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
15	ミュージアの日 2018	2018年7月1日	指揮：秋山和慶管弦楽：東京交響 楽団司会：朝岡 聡	目標値	1,500
		ミュージア川崎シンフォニ ーホール		実績値	1,559
16	地域連携事業	2018年4月～2019年3 月	ピアノ：小川典子 他	目標値	1,000
		神奈川県立中原養護学校 他		実績値	1,150

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

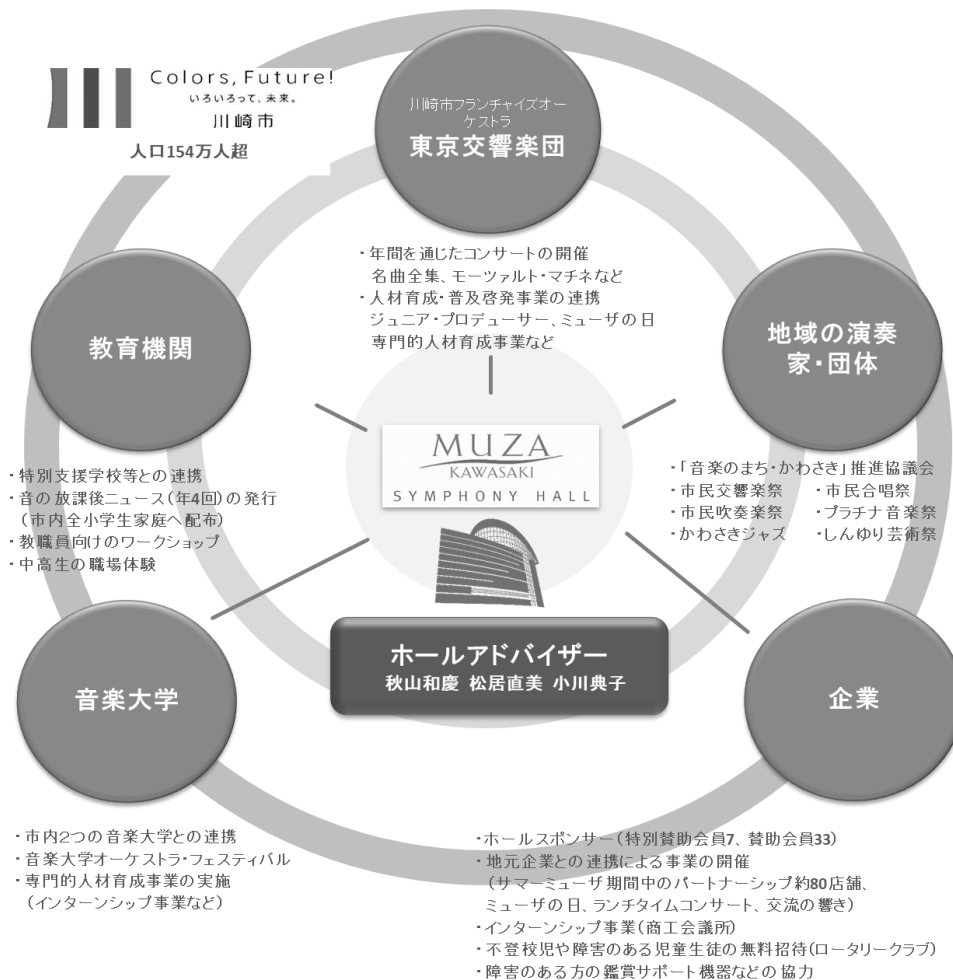
#### 自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が実施できたか。

ミューザ川崎シンフォニーホールは『すべてのひとつがつながるまち～共生社会の実現～』というミッションの達成を目指し、5つの大きな柱：「頂点」「広がり」「まちのシンボル」「未来」「多様性」を念頭に事業計画を立てて来た。達成に向けては「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして助成金の大きな支えを有効に活かし、質の高い音楽芸術の創造・発信、音楽文化の裾野の拡大、市民や企業・団体等との地域連携、国内外の次代を担う人材育成と教育普及に努め、「音楽のまち・かわさき」としてのブランド形成に寄与するとともに、あらゆる人々が共に鑑賞できる場を創造してきた。

#### 【要素と関係性】

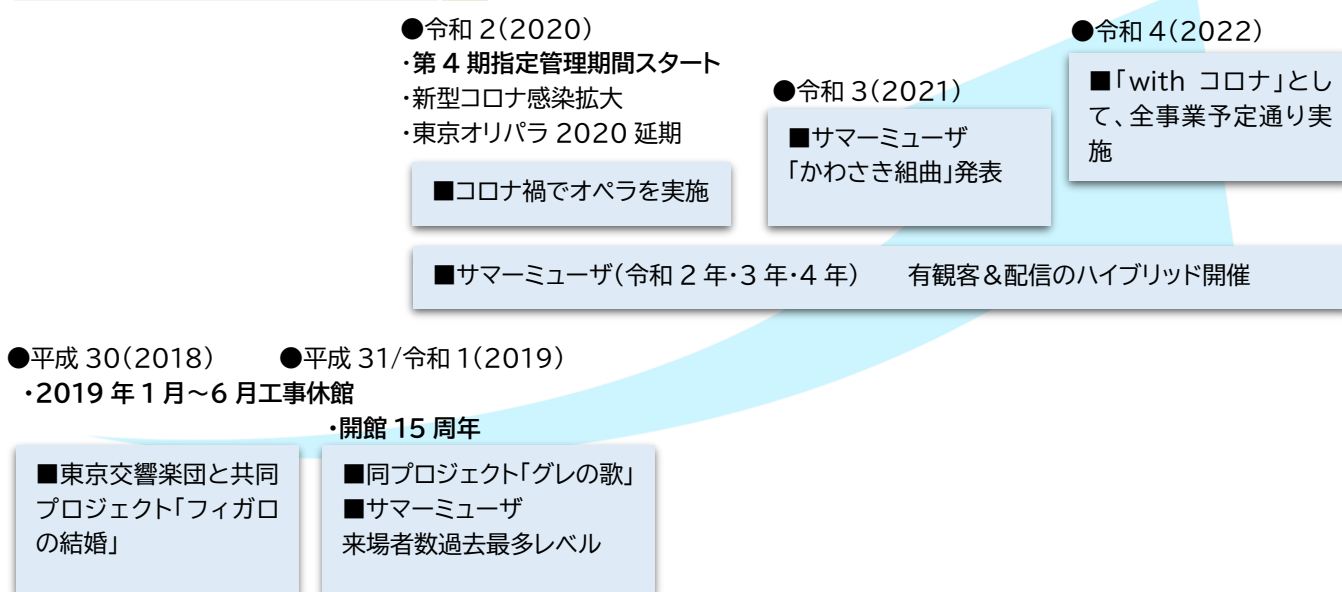
ミューザ川崎シンフォニーホール	「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして市の音楽文化の中心を担う
東京交響楽団	市フランチャイズオーケストラとして鑑賞、体験の機会を創出
教育機関	小・中・高校と長期的に連携／鑑賞、体験の機会を提供
音楽大学	市内2つの音楽大学と長期的に連携／専門的人材育成
企業	ホールスポンサーをはじめとする地元企業との協働
地域の演奏家・団体	地域に根差した音楽文化の醸成と、市民へ“晴れの舞台”を提供



## ■平成 30 年度～令和 4 年度の 5 年間の取り組みについて

5 年間の取り組みは「川崎市文化芸術振興計画」や「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」に則り、ホールの運営方針に沿って計画された。平成 30 年度～平成 31 年度は前述した関係機関と連携を図り、3 名のホールアドバイザーや市のフランチャイズ・オーケストラ「東京交響楽団」をはじめとする音楽的な資源も活かしながら事業を計画通りに実施した。平成 31 年 1 月から舞台設備等更新工事のため 6 か月間休館をし、7 月 1 日にリニューアルオープンした。休館中も市内の他施設を使用するなどして計画通りの事業展開を行ってきた。しかし、令和 2 年 3 月から新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い事業計画には公演中止や変更が相次いだ。令和 3 年度も困難な状況が続いたが冷静に事業計画を点検し、感染症拡大防止対策用のガイドライン作成や情勢に合わせ内容に切り替えるなどして事業に取り組んだ。令和 4 年度は「with コロナ」として感染対策と事業を並行して展開し、来場者は前年比 132%に回復するなど確実に実績を積み重ねていった。

### ミュージアの取り組みトピックス



### コロナ禍における取り組みトピックス

上記に加え、人材育成・普及啓発事業では感染症による「人と会うこと」を制限された影響が大きかった。それを逆手に以下のような新しい手法に取り組むことができ、企画がブラッシュアップされたことは、コロナ禍による数少ない恩恵とも考えられる。

■東京交響楽団と開催している「名曲全集」(※対象外事業)にて、若手支援事業として実施した「ソリスト・オーディション」により選ばれたピアニストが実践の場として協奏曲を共演。その公演において CD 制作とインターネット配信をいち早く実施し、客席数をはるかに超える約 100,000 人が視聴。テレビや新聞でも大きく取り上げられ、クラシック音楽の新しい楽しみ方、さらには収益力強化につながるのではと大きな話題となった。

■「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2020」では、コロナ禍においていち早く有観客で公演を再開し、さらに配信も行う「有観客+配信のハイブリッド」を実施。配信の総再生回数は 31,000 回を超えた。

■おうちでミュージア (Youtube コンテンツ)

コンサートの中止が相次ぎ鑑賞の機会を失ってしまった市民のため、また、演奏の機会を失ってしまった奏者に演奏機会を提供するために動画コンテンツを配信。東京交響楽団と連携し楽器紹介やミニコンサートなど 11 本を配信した。

## 自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

前述の実施計画に沿って着実に実績を重ねた結果、5年間で多くの注目すべき成果やインパクトが現れている。

### 文化的意義・・・<頂点>と<多様性>を両立

#### ●トップレベルの音楽の創造・発信

「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI」や、東京交響楽団と共同制作した「フランチャイズ・オーケストラ・プロジェクト」の実施でトップレベルの音楽を創造・発信した。

【平成30年度】音楽雑誌の読者アンケート企画「好きな演奏会場」で全国第2位

【平成31年度】『グレの歌』がミュージック・ペンクラブ音楽賞、

「音楽の友」誌『コンサート・ベストテン2019』で国内企画最高の第6位。

【令和2年度】席数限定の有観客＋生配信の「ハイブリット開催」実施。多くのメディアに取り上げられた。

ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門で《功労賞》も受賞。

#### ●多彩な人材育成、特色あるコミュニティプログラムやアウトリーチ公演などで多様な人々へ音楽を提供

・平成25（2013）年より継続している「ジュニア・プロデューサー」、そのアドバンスプログラムである「リトルミュージア」において市内の小中学生にコンサートの企画制作を通じた心と体の成長の場を提供。その取り組みは注目され、他施設からの視察も受け入れた。

・東京2020オリンピック・パラリンピックを一つの契機として取り組んできた「インクルーシブ事業」の一環として「かわさきドレイクミュージック・プロジェクト」に参加、障害児とともに作った作品「かわさき組曲」を発表。「音楽の友」誌の「忘れがたいこの1曲！」に選曲されるなど注目を集めた。

### 社会的意義・・・<まちのシンボル>と<未来>

#### ●地域の交流拠点として

「ミュージアの日」「こどもフェスタ」では様々な企画を実施してホールが“集う場所”として機能した。コロナ禍では内容の変更を余儀なくされたが、それでもホールに多くの家族連れが集い、音楽を通じた交流を楽しみ、まちのにぎわいも生まれた。

#### ●若い世代へ

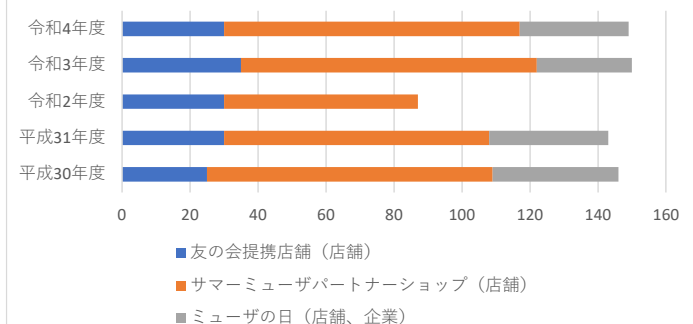
企画制作を通じた子ども達の交流「ジュニア・プロデューサー」「リトルミュージア」、登校が困難な状況にある子ども達に一步踏み出すきっかけを提供する「ロータリーシート（協力：川崎西ロータリークラブ）」においては人材育成を超えて音楽文化の継承や、シビックプライドの醸成を促すことができた。

### 経済的意義・・・さらなる<広がり>

●「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI」「ミュージアの日」でコンサートへ来場する観客に近隣施設・店舗にも足を運んでもらう仕組みを設計し、まちのにぎわいに貢献。協働した協力企業・団体は140を超えた。

●「ミュージアの日」は川崎駅周辺を巻き込んだ一大イベントに成長しコロナ禍前は約17,000名が来場、コロナ禍でも6,500名が来場した。

協力企業・店舗推移





## (2) 有効性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

### 自己評価

目標を達成し、アウトカムが発現したか。

『すべてのひとがつながるまち～共生社会の実現～』の発現に向け事業全体は概ね順調に実施された。しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響により目標値(入場者・参加者数、参加者率、収益率)については、令和2年度以降は大幅な減少となった。それらを正確に把握し達成度合いを図るため、券売状況の共有、過去5年間の再点検、部署毎に重点課題を設定し四半期に一度それぞれの到達具合を可視化し、共有している。

5年間を通じた事業計画の目標達成状況は以下の通り。ほとんどの項目で達成している。

目標/指標	H30	H31	R2	R3	R4	5年間の達成状況
<b>フランチャイズ・オーケストラとともに国際的レベルの音楽創造・発信を推進</b>						◎毎年達成 ○数年達成
・国際レベルのオーケストラ公演事業を継続して3事業開催	3	5	3※	2※	3※	◎
・Webサイトに英語ページを準備する	○	○	○	○	○	◎
海外からのアクセス向上 (海外からのHPセッション数/単位:千件)	12	52	25	29	76	◎
<b>我が国のオーケストラ文化発展への貢献</b>						
・サマーミュージザへ地方オーケストラ1~2団体を招聘	0	1	1	2	1	○
・首都圏オケと地方オケを合わせて10団体の出演	10	10	10	11	10	◎
<b>コンサートへの市民参加の増加</b>						
・1年間の平均来場者75%以上	76%	76%	73%	76%	76%	○
・市民参加の音楽祭、演奏会を6事業継続	6	6	6※	5※	5	○
<b>まちのシンボルとしての認知度向上</b>						
・サマーミュージザのパートナーシップ、 ミュージザの日の協力企業の増加(約100団体を目指す)	○	○	○	○	○	◎
・ホームページのアクセス数、 SNSにおける認知度向上	729 6438 5288	846 7170 →	757 9000 →	781 10578 →	920 12506 6503	○ ◎ ◎
<b>子ども達が音楽と関わる機会の増大</b>						
・「交流の響き」公演への協力 (地方の音楽コンクール入賞者コンサート)	○	○	○	○	○	◎
・何らかの事情で音楽鑑賞機会の少ない子ども達への機会提供	○	○	○	○	○	◎
・ジュニア・プロデューサー、リトルミュージザの継続、登録者数増加	○	○	○	○	○	◎
・U25割引チケットによる入場者率の増加	5.8%	5.4%	※	6.1%	6.0%	○
・教育機関との連携・ネットワークの構築 (年4回の季刊紙発行の継続、教育関係機関の会議出席)	○	○	○	○	○	◎
<b>コンサートに出かけやすい環境づくり</b>						
・高齢者や障害者などのための受入れ環境、体制づくり	○	○	○※	○	○	◎
<b>多様な人々による演奏参加機会の創出</b>						
・ホームページのアクセシビリティ充実	△	△	○	○	○	○
・ホールパンフレット「見え方聞こえ方ガイド」の英語版作成	○	→	→	→	→	○
・インクルーシブ・プログラムの実施を目指す (年間10公演程度のアウトリーチ公演を実施)	○	○	○※	○※	○	◎

※・・・感染症の影響により一部中止

<ポイント>

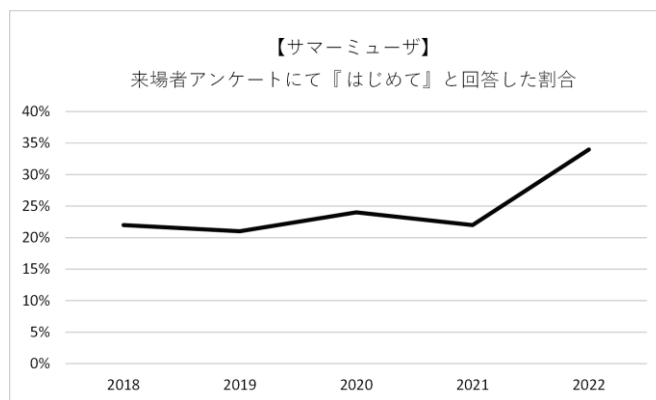
#### ■フランチャイズ・オーケストラとともに国際レベルの音楽創造・発信を推進する

東京交響楽団との共同制作はオペラの演奏会形式を中心に展開し、毎年話題を呼んだ。ジョナサン・ノット音楽監督と継続的に取り組んだことで技術が磨かれ、また、これらの公演のために来日した世界の第一線で活躍する歌手陣との共演を通してトップレベルの音楽を創造した。

## ■我が国のオーケストラ文化発展への貢献

「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI」では、首都圏から日本のオーケストラの祭典へと発展させることも目標に地方オケを継続的に招聘した。

右のグラフが示す通り 5 年間で徐々に来場者数の幅が広がっていること、令和 2 年度公演ではいち早く有観客公演を再開し音楽祭全公演を配信したことから、コロナ禍で制限されてしまった鑑賞機会の提供と、会場へ足を運べない方々にも公演を届けることができた点は、オーケストラ文化の発展に大きく貢献したと言える。



## ■コンサートへの市民参加の増加

平成 30～平成 31 年度では“晴れの舞台”として市民参加コンサートを実施できたが、令和 2 年度は感染症の影響により中止が相次いだ。参加の機会を失わないよう、演奏動画の応募企画「みんなでポレロ」「リモート合唱団」(GoGB プロジェクト) など、オンラインの参加型企画も行った。令和 3 年度は、市民による事前練習においても感染症対策を徹底し公演を徐々に再開することができた。

情勢により市民の表現の機会は失われやすい事がこれらのことから分かり、今後、困難な状況下でも音楽を楽しむ機会を維持できるような体制や手法の検討が必要だと考えている。

## ■まちのシンボルとしての認知度向上

ホールが中心となって近隣の企業や商業施設と連携し、来場者サービスや事業展開の増加を目標としていたが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、すべてが落ち込んだものの、令和 3 年度以降はコロナ以前を上回る店舗・企業数となり、ホールへの期待値の高さを感じる事が出来る。

## ■子ども達が音楽と関わる機会の増大

毎年希望者が多く抽選になる「ジュニア・プロデューサー」企画、「ジュニア・プロデューサー」を卒業した中高生たちのアドバンスプログラム「リトルミュージア」は家庭と学校以外の第三の場所として、音楽を通して社会と関わる貴重な機会となっている。特に「ジュニア・プロデューサー」は他施設からの視察も度々受け入れ、注目度が高い。

鑑賞面では複数事業で U25 チケットを設定。年間の平均利用率は 5%、事業によっては 10～20%にのぼり、家族連れでの来場促進にもつながっている。

パイプオルガンレッスンでは音楽大学を目指したり、実際にオルガン専攻に進学したりする参加者も出ており確実に演奏家の人材育成につながっている。

教育機関との連携によって継続して情報発信を実施、ワークショップをはじめとする音楽に関わる機会を子ども達に提供している。

【音の放課後ニュース】市内小学校全児童に配布／毎年 4 回作成

(1 回につき約 80,000 部発行)

【ロータリーシート】 不登校児のコンサート招待

(協力：ロータリークラブ)／年間平均 6 公演 20 名が参加



## ■コンサートに出かけやすい環境づくり

平成 30 年以降、研修や様々な来場者のニーズを把握する調査を実施。令和 2 年度から「ダイバーシティスタッフ制度」を本格導入し、初めての方でも安心して来場できるよう不安を取り除き、繰り返し来場する方とはコミュニケーションを深める事でサービスの向上につながっている。一方でプライオリティゲストが複数いる場合、専任を一人置いて対応しきれないという現状もあり、改善策として専任スタッフのみならず全スタッフが対応出来るよう、引き続き研修を実施している。

## ■多様な人々による演奏参加機会の創出

前述の通り受け入れ態勢を整えながら、情報保障の面でも充実を図るためホームページのアクセシビリティ改善に取り組んだ。完了目標は令和4年3月としていたがコロナ禍の影響もあり令和5年9月を予定している。

この5年間で「誰もが音楽を楽しめる」機会を多数提供してきた。特別支援学校へのアウトリーチ公演（ポップ・コンサート）、「東響ミニコンサート（ガレリア）」ではホールに入ること自体にハードルを感じる方々にも音楽を届けた。さらに「ミュージアの日」では聴覚障害を対象にした鑑賞サポートを充実させ、音楽を体感してもらうことができた。

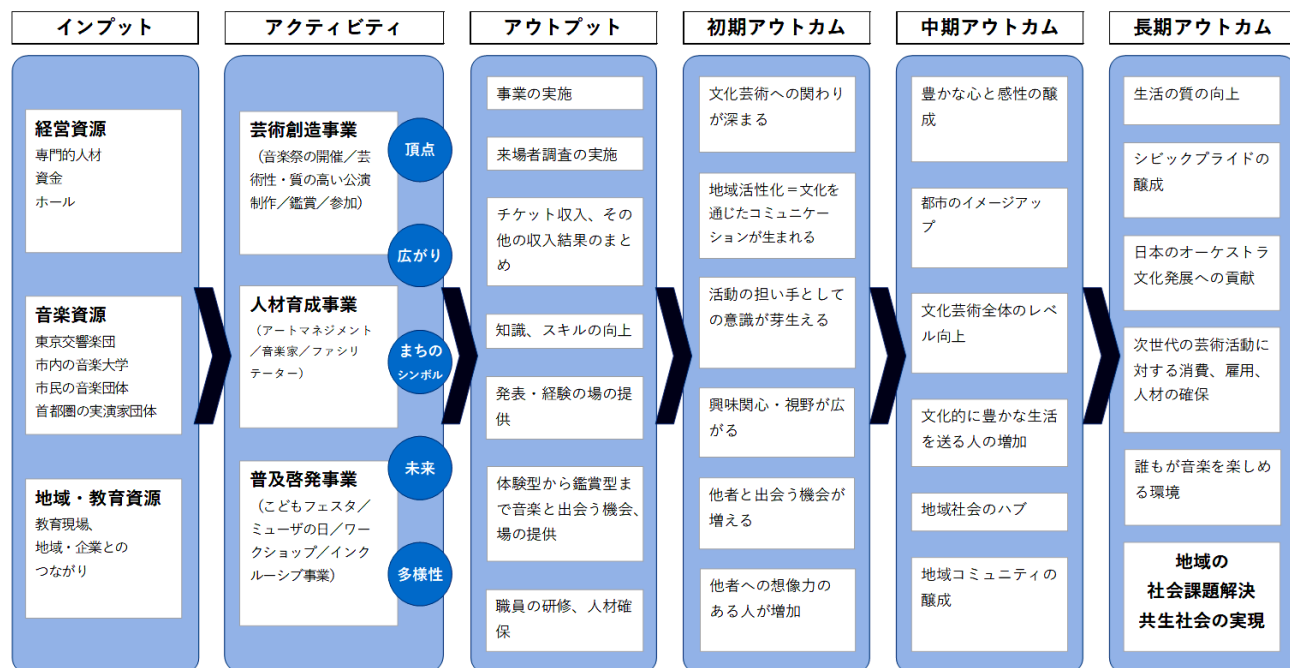
「ミュージアの日 2020」では自宅で過ごすことが増えている子ども・家族向けにコンサートの無観客配信を実施したことについて、障害児の母から「今までじっとすることが出来ず、ホールに行くことを躊躇していたが、配信という形ではあるが、はじめてコンサートをじっと聞くことが出来た。とても良い体験だった。」という感想をいただき、鑑賞体験としてこちらが想定していなかった成果を得ることができた。

「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2022」では、東京交響楽団公演において、オーケストラの楽団員と市内の特別支援学校の児童生徒で造り上げた「かわさき組曲」を披露。音楽家と障害児が互いを尊重し双方向で作品を作り上げたことや、また、その作品を全国から注目の集まる音楽祭の一部に取り入れたことは、文化的にも社会的にも非常に意義深く、かつ先導的な取り組みとなった。

以上のことから、事業が計画的に実施され成果が現れており、それに伴いほとんどの指標が達成されていることから、各目標も達成されたと考える。

コロナ禍において大きな制約を受けたが、最終的には事業実施についてミュージアに関係する組織が有機的に連携し、“with コロナ”での新しい手法にも対応していった結果、アウトカムが発現し『すべてのひとがつながるまち～共生社会の実現～』に繋がった。今後もさらにインパクトが広がるよう努めていく。

### ～音楽で人と人をつなぐ～ 音楽によるまちづくり推進事業 ロジックモデル



### (3) 効率性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

#### 平成30年度

事業期間は当初の計画通りに完了した。

#### 平成31年度

13事業は計画通り、以下の4事業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止・変更があった。

[中止] No. 10 音楽大学フェスティバル・オーケストラ

[変更] No. 6 モーツァルト・マチネ 2020年3月公演を中止→無観客動画配信に切替え

No. 7 地域連携・アウトリーチ公演事業 2020年3月ガレリアコンサートを中止  
→2021年度動画配信を実施

No. 9 若手支援事業 2020年3月公演を中止→無観客動画配信に切替え

変更の影響により次年度に延期になったものもあり、事業期間は長くなった。変更したもののうち特筆すべきはNo. 9 若手支援事業の令和2年3月公演（オーディションにより選ばれたピアニストが東京交響楽団とコンチェルトを共演）で、コロナ禍ではじめて動画配信を実施、視聴総数は100,000回にのぼった。

また、事業期間は大きく変わらなかったものの企画内容の変更等のために新たな実務が発生した。

#### 令和2年度

申請した16事業すべてで中止・変更があった。

[中止] No. 3、No. 10、No. 11、No. 12

[変更] 上記以外の公演（変更内容：公演日／出演者、曲目等の公演内容／配信／販売座席 等）

この年も中止・変更により次年度に延期になったものがあり、事業期間は長くなった。

#### 令和3年度

1事業は計画通り（No. 2）、その他の13事業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止・変更があった。

[中止] No. 10

[変更] 上記以外の公演（変更内容：公演日／出演者、曲目等の公演内容／配信／販売座席 等）

この年も中止・変更が発生したが、できるだけ実施するため、または変更内容を最小限にするための選択肢をあらかじめ準備しながら進めることで、大きな混乱なく実施できた。

#### 令和4年度

事業期間は当初の計画通りに完了した。

#### 5年間を通して

平成31年度から令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止・変更・延期をせざるを得なかった。その状況に合わせた内容に変更したため一部の事業は期間が長くなったものや、中止により期間が短くなったものもある。新型コロナウイルス感染症の影響が日々変わっていたため適切な事業期間の検証は難しいが、感染症やその他有事における対応事例として、今後この内容を活かしていきたい。令和4年度は、計画通りの事業期間で行うことができた。コロナ禍前の状況に戻りつつあると言える。

## 自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

### 平成 30 年度

事業費の要望比は 94.2%となり大きな乖離はなかったため、ほぼ予定通り執行できた。

・人材育成事業への参加者数が想定した 50%であったため、対象者へのアプローチ、ファシリテーター候補の絞り込みや、効果的な広報活動の検証を行った。

### 平成 31 年度

事業費の要望比は 91.5%となった。一部で新型コロナウイルス感染症の影響により中止・変更が発生したため、おもに出演・音楽・文芸費において執行できないものがあり支出が抑えられた。

・開館 15 周年記念事業「グレの歌」はチケット収入が計画の 151%となり、事業費を効果的に活用しレベルの高い公演を実施できた。

### 令和 2 年度

事業費の要望比は 76.1%となり要望時と大きく乖離した。緊急事態宣言による施設の休館・外出自粛、海外からのアーティストの入国制限による公演中止・変更、イベント制限による販売客席数の減少など、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。

総入場者数も目標値の 26%となり、目標を達成することが困難であった。

・人材育成事業はほとんどが中止となり、未来を担う人材へ経験や報酬を得る機会を提供できなかった。今後何らかの影響が出るのではと懸念している。

### 令和 3 年度

事業費の要望比は 88.2%と、前年度に引き続き要望時と大きく乖離した。新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じつつも、海外からの入国制限、イベント制限などの影響は回避できず中止・変更が発生した。

### 令和 4 年度

事業費の要望比は 111.51%と要望時を上回ってしまった。特にサマーミュージアにおける配信費用は前年度までは他の助成金を獲得していたが令和 4 年度では実現できなかったこと、また、要望時の想定よりも指揮者やソリストの演奏料が上がったためと考えている。物価高も大きな影響を及ぼした。

### 「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI」5 年間の動向

- ・平成 30 年度 チケット販売枚数は過去最高を記録し、事業費を効果的に執行できた。期間中に台風の影響でチケット払戻しを行った。
- ・平成 31 年度 対象事業の入場者数は約 27,000 名となり過去最高と並ぶ結果を記録した。事業費の効果的な執行により、出演団体を首都圏から全国へ広げ、また重点的な広報活動を実施できたことによる結果が表れた。
- ・令和 2 年度 有観客+配信のハイブリッドで開催し、来場者は前年度の 1/4 以下になったが、配信は視聴総数約 33,000 回を記録。結果的にかつてない人数がコンサートを鑑賞した。一方、新型コロナウイルスの状況が日々変化し効果的な告知が行えず、広報費は余剰した。
- ・令和 3 年度 有観客+配信のハイブリッドで開催。販売座席の制限を解除したもののコロナ禍前には及ばなかった理由は、外出自粛や「となりの席に人が座るのは嫌」というお客様の増加と考える。また、減少した配信視聴者数については前年度に比べ全国で配信コンテンツが激増し他との違いを明確に打ち出せず、今後の課題となった。
- ・令和 4 年度 有観客+配信のハイブリッドで開催。販売座席の制限を解除したものの前年度に続きコロナ禍前には及ばなかった。外出自粛が依然と根強いことに加え、コロナ禍前に実施していた公開リハーサル等の公演の特典企画が再開できていないことも理由のひとつと考えている。

### 5 年間の総括

5 年間の前半はほぼ計画通りに事業を実施、事業費を執行してきたが、平成 31 年度の終わり頃から新型コロナウイルスの影響により計画の中止・変更を余儀なくされた。特に、「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI」の配信事業を展開する中で発生した予想外の経費は視聴料だけでは賄えず、別の助成金に申請し資金確保に努めた。

## (4) 創造性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている (と認められる) か。

#### ◆ 劇場・音楽堂として、ミュージアの資源

##### 1. 川崎市のフランチャイズ・オーケストラ、東京交響楽団

オーケストラ用に設計されたミュージア川崎シンフォニーホールにとって、主役となる楽団。独創的なフランチャイズ・オーケストラ・プロジェクトを始め、夏の音楽祭フェスタサマーミュージアでホスト楽団として音楽祭全体を先導、モーツァルト・マチネやミュージアの日では教育や普及にも貢献。

##### 2. 世界が認める最高の音響、広く支持されるホール

世界的指揮者のサー・サイモン・ラトル氏が「世界最高の音響」と絶賛したハード面 (音響設計) のすばらしさだけでなく、当施設の強みでもある、多様な主催公演群、ホスピタリティ、さまざまな組織とパートナーシップを組んだ事業展開、それらすべてが有機的に関連した結果、ホールとしてのブランディングを世界へ発信していると考えます。

##### 3. 主催公演企画を牽引する、ホールアドバイザー制度

チーフ・アドバイザーに秋山和慶 (指揮者)、アドバイザーとして松居直美 (オルガニスト)、小川典子 (ピアニスト)、佐山雅弘 (ジャズピアニスト、平成30年11月逝去) が、それぞれの個性を活かした独創的なアドバイザー企画公演を実施する。その他、秋山は毎年ジルベスターコンサートを企画監修して出演、松居は招聘オルガニストの調整や企画に助言。小川は、サマーミュージア開始以来、子ども向けピアノ公演をライフワークとして続けてきた。佐山は、ホール主催ジャズ公演やかわさきジャズに出演や助言、パイプオルガンとジャズの独創的なコラボレーションも複数回実施し好評を博した。



東京交響楽団



秋山和慶(指揮)



松居直美(オルガン)



小川典子(ピアノ)

##### 4. 川崎市内2つの音楽大学と、首都圏7つの音楽大学

市内2音大は、サマーミュージアで (プロ楽団に交じり) 各1公演に出演、特に洗足学園はバレエとオーケストラのコラボレーションで大学の独自性を発揮している。毎年3月には、東京芸術劇場との共同企画で、首都圏9音大が合同で音楽大学フェスティバル・オーケストラを編成、第一線で活躍するベテラン指揮者と一期一会の若さ溢れる演奏は、プロ楽団の演奏とは違った魅力を持ち、意義のある育成を毎年継続している。



洗足学園音楽大学



昭和音楽大学



音楽大学フェスティバル・オーケストラ

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につなげた（と認められる）か。

### ◆ フランチャイズ・オーケストラ・プロジェクト

東京交響楽団の魅力を様々な角度で発信するプロジェクト。平成 30 年には、その 2 年前から継続するモーツァルトのダ・ポンテ 3 部作の最終作として、歌劇「フィガロの結婚」をセミステージ形式で上演。装置や衣裳に頼らず、歌手たちの歌唱力と演技力、そして東京交響楽団と音楽監督ジョナサン・ノットの演奏力だけでオペラの世界を表現、「モーツァルトとダ・ポンテが想定したドラマの本質」（音楽の友誌 2019 年 2 月号）とカラー見開き 2 ページで掲載され高く評価された。

平成 31 年秋にはホール開館 15 周年企画として、シェーンベルクの大作「グレの歌」を 2 公演開催した。楽器編成上では最大級の楽曲だが、ジョナサン・ノット指揮・東響の演奏力とミュゼの音響がマッチして、音楽の友誌「2019 コンサートベスト 10」において国内最高位の第 6 位と評価された。

（※令和 3 年度はこのプロジェクトの予定がなく、同 4 年度は新設された AFF 助成金を受けたため省略する）

令和 2 年 9 月には全国共同制作オペラとして、井上道義指揮、野田秀樹演出で平成 27 年に新制作、全国 10 カ所で上演し大きな話題となったモーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」を再演した。通常「新制作」が貴重とされるが、それが「再演」されることはさらに重要と考え、再び全国共同制作に参加した。この年の春からコロナ禍が始まったが、関係者全員で細心の注意を払いクラスター感染を起こさず、予定通り上演できたことは劇場運営上とても得難い経験となった。



2018 年「フィガロの結婚」



2020 年 井上道義×野田秀樹「フィガロの結婚～庭師は見た！～」

**独創性** ジョナサン・ノット指揮の「フィガロの結婚」は、歌唱&演奏のみの通常の「コンサート形式」とは異なり、装置や衣裳のない「引き算の美学」による上演であり、ミュゼを円形劇場に見立てて、舞台上を所狭しと動き、演じることで（モーツァルトとダ・ポンテの意図した）「フィガロの結婚」を見事に再現した。この上演方法は、「テレビ vs 小説」の違いのように観客の想像力をかき立て、音楽そのものを純粋に味わうことができる独創的なオペラ上演となった。

**新規性** 井上道義&野田秀樹の「フィガロの結婚」は、ノットのフィガロとは正反対で、装置、小道具、衣裳はフル装備の日本独自仕様。さらに幕末の長崎を舞台に設定した読み替え、野田自身が新たに創作した訳詞とそこから派生させたサイドストーリーで、ふだんオペラを見ない演劇ファンをはじめ新しい「オペラファン」を創出することができた。平成 27 年と令和 2 年の合計で延べ全国 13 箇所、17 公演が盛況に終わったことがその証明であろう。

**先導性** 平成 31 年秋の「グレの歌」は、楽器編成や人数的にもクラシック音楽で最大級の作品で、実演の機会は限られる。この希有な作品の演奏は、専門雑誌でも高く評価されたように、人々の記憶に残り、オーケストラの演奏力の高さはメンバー各人の自信になったと思われる。

## ◆ フェスタ サマーミュージック KAWASAKI（毎年7月下旬～8月中旬）

ミュージック開館翌年の平成16年から続くホールを代表する企画。オーケストラを中心に、ピアノ、オルガン、ジャズを含めた音楽祭で、毎夏約20公演を開催。各オーケストラの定期公演等が少なくなる夏期の目玉となっている。令和2年からのコロナ禍では当初全国的な長期休館等により開催が危ぶまれたが、即座に企画内容を再編、客席数を600に限定、全国でもいち早く公演を再開して全17公演を完遂した。同時にインターネットでの映像配信も行い、感染等で来場できないお客さまを始め、全国各地の音楽ファンにリアルタイムと8月末迄のアーカイブ視聴で高品質な映像と音響で音楽を届けたことが高く評価され、「2020年度 第33回ミュージック・ペンクラブ賞」において《功労賞》を受賞した。



オープニングファンファーレ



配信の様子(バックステージカメラより/2020年公演)



公演レビューを届ける日刊紙

**独創性** 首都圏を代表するオーケストラが、音楽監督や常任指揮者とともに短期間に揃って演奏を競う音楽祭は国内随一。お客さまが複数公演を聞き比べやすいようにお求めになりやすい4種類のセット券を設定、各楽団も企画の独自性や演奏の精度、さらには集客も協力することで高水準の公演が多く発現することで、日本のオーケストラ文化の底上げに寄与している。ホールと地域との繋がりのため、初回からホール周辺の飲食店約80店と提携し、来場者が割引等のサービスを受け、地域経済の活性化や町の賑わいも創出する役割を果たしている。

**新規性** 平成26年(第10回)からは、公演翌日に発行する音楽祭の新聞「ほぼ日刊サマーミュージック」を創刊、前日公演を音楽評論家によるレビューを掲載し、前日の聴衆が文字からも反芻できるようにした。また会場での配布だけでなくネットでも購読可能にした。バックナンバーを求めのお客さまも多い。平成31年(第15回)から首都圏の楽団だけでなく、首都圏以外からも1~2楽団を招くことで、「首都圏のサマーミュージック」から「全国のサマーミュージック」に発展、お客さまも日頃聴く機会が少ない地方楽団の演奏を聴き、応援する機運が生まれている。さらに参加する地方楽団は、首都圏で多数の観客の元で演奏できる機会は貴重だと意気込み、演奏力の向上に繋がっている。またコロナ禍への対策として、令和2年度からの3年間は、全公演をカメラ8台のハイビジョンで映像収録してインターネットで配信(有料)、日本全国で視聴できるようにした。

**先導性** 近年のサマーミュージックでは、有名なクラシック作品に加えて、日本人作曲家の作品も積極的に取り入れている。令和2年には武満徹(日本フィル)、同3年には吉松隆(東響)をプログラムに織り込む形でクラシックの名品と聴き比べた。同4年には生誕90年の山本直純(新日本フィル 創立指揮者/楽団50周年)を特集、昭和の音楽界をリードした偉人を回顧しつつ作品を楽しんだ。これらはネット配信用に映像収録も行ったため、実演機会の少ない貴重な作品を映像でアーカイブすることができた。将来的に活用の機会があれば、演奏者等の権利を保護しながら活用に努めたい。



## ◆ ミューザの日（地域連携、普及啓発、人材育成）

7月1日は、ミューザの開館記念日で、川崎市の市制記念日。市内公立学校も休日となるが、それを祝うお祭りも市内で行われていないことから、平成25年から同日に開催。ホールでの入門編的な公演を中心にミューザビルの共用部分をビル管理組合と協力して、各種イベント（JRトレインフェスタ、フロンターレキックターゲット、JAセレサ農産物即売、クイズラリー、市内マイスターによる伝統工芸体験など）を開催。さらにホール周辺の商業施設に声がけして、各施設でイベントを開催、地域の連携・協力体制を築いている。

また同日開催の「ジュニア・プロデューサー」企画は、東響弦楽四重奏の協力で、小学生たちが3ヶ月かけて公演制作を体験する人材育成プログラムで、これも全国初の試みとして各地で類似企画が生まれている。

### 【公演内容】\*各回で秋山和慶指揮／東京交響楽団が演奏

- 平成30年 音楽のひみつ「メロディ／リズム／ハーモニーを大解剖」、指揮者体験コーナー 他
- 平成31年 ザ・コンチェルト～東響メンバー協奏曲いいところ取り、指揮者体験コーナー 他
- 令和2年 コロナ禍により公演中止（ネット配信により、「音楽世界旅行」を配信した）
- 令和3年 寸劇付き、音楽まるわかり講座「ベートーヴェン：運命」
- 令和4年 寸劇付き、音楽まるわかり講座「ドビュッシー：海」～浮世絵の体験連携あり



「ミューザの日」ウェルカム・コンサート



ジュニア・プロデューサー



「ミューザの日」協力企業・団体の催し物

**独創性** ホールが中心となって「まちのお祭り」を主催して、地域の商業施設を結びつけている例は全国でも珍しく、福井県や埼玉県など各地から視察に来ている。ホールの仲介が契機となって民間の商業施設同士が連携を始めた例もあり、町の連携を産み出しフレンドリーな雰囲気醸成したことは公共ホールとしての新しい役割を果たせたと、ホールの自信になっている。

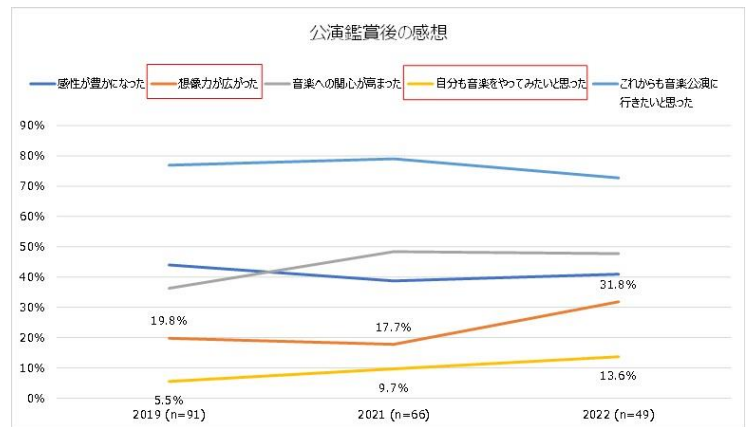
**新規性** 入門的な音楽公演には、通常の大人料金の他に、こども料金やシニア料金も設定しているが、それ自体は珍しいことではない。家族で来場して音楽を聴いて、鉄道模型に親しんだり、プロのサッカーチームのスタッフに指導を受けたり、絵本の読み聞かせを楽しんだり、地元農産物を買ったりと、音楽を特別視せず気軽に「音楽+アルファ」を楽しむことが、この「ミューザの日」の目的であり、新しいところと言えるである。

**先導性** この「ミューザの日」は日頃とかく難しいと思われがちなクラシック音楽を、多種多様なイベントを行うことで敷居を下げ、誰でも気軽にホールへ音楽を聴きに来る雰囲気作りをする役割を担っている。（ホールではワンコイン500円で楽しめるランチタイムコンサートを毎月開催している）このイベントがあるために、ホールスタッフも地元の人々と積極的に交わり、ホールの敷居を下げて「地域と繋がる共通の話題」があり、良好な関係性を保っている。

さらに、7月末からの音楽祭「フェスタ サマーミューザ KAWASAKI」へお客様を誘導する役割も担い、より本格的で多様な音楽の体験へとつなげていくことで、ミューザの日は「すべての人が音楽でつながるまち～共生社会の実現」のスタート地点となっている。

**\*参考\***

「ミュージアの日」で実施した来場者アンケート（右グラフ）では、「想像力が広がった」「自分も音楽をやってみてみたいと思った」という回答が徐々に増えていった。このコンサートがクラシックコンサートへの敷居を下げたり、鑑賞だけでなく参加への意欲も刺激していることが分かった。



**◆音楽大学フェスティバル・オーケストラ（人材育成）**

毎年秋に首都圏 9 つの音楽大学によるオーケストラフェスティバルを東京芸術劇場と共同で開催している。その 9 音大から選抜された学生たちで構成されて、毎年 3 月末に約 1 週間の練習を経て公演する一期一会のフェスティバル・オーケストラ。指揮者は、世界レベルもしくは日本を代表する指揮者を招き、協奏曲は入れず、大規模な管弦楽曲のみで構成される。ミュージア川崎シンフォニーホール、東京芸術劇場と異なる 2 つのホールの両方で公演し、このフェスティバルを楽しみに若者たちを応援する聴衆が育っている。

- 【公演内容】平成 30 年 指揮：小林研一郎／ベルリオーズ：幻想交響曲 他  
 平成 31 年 ※コロナ禍により中止（当初予定 指揮：井上道義）  
 令和 2 年 ※コロナ禍により中止（当初予定 指揮：シルヴァン・カンブルラン）  
 令和 3 年 指揮：下野竜也／三善晃：祝典序曲、ブルックナー：交響曲第 4 番  
 令和 4 年 指揮：井上道義／伊福部昭：シンフォニア・タプカーラ、  
 ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」 他



平成 31 年度公演より(指揮:小林研一郎)



令和 4 年度公演より(指揮:井上道義)

**独創性** 首都圏 9 つの音大から選抜された学生たちが出会い、約 1 週間の練習と 2 つの公演を経て、それぞれが得るものは大きい。この規模の合同合奏は全国でも例を見ない。それらの結果として、このオケの卒業生からプロのオーケストラ奏者が複数生まれていることは、フェスティバルを主催し事務局を担当するミュージア川崎シンフォニーホールと東京芸術劇場の誇りとなっている。

**新規性** オーケストラ奏者を育成するだけでなく、ステージマネージャーやライブラリアンを経験する学生たちもいる。これらの経験者の中から、全国の劇場・音楽堂等に就職したスタッフは数多く、日本の劇場文化の底

上げに寄与している。またコロナ禍前は、地方の音楽大学から優秀な学生を推薦してもらって、主催者の費用負担で招き、首都圏音大の学生に交じって演奏していた。微力だが地方音大の底上げにつながっている。

**先導性** 全国に音楽大学があり、演奏曲も通常の大編成の管弦楽曲だが、どのような学生がどのように演奏するかでその結果は大きく異なる。令和4年度（令和5年3月）の指揮・井上道義は、自身の引退を前に人生最後の「春の祭典」を指揮した。コロナ禍で苦しんだ学生たちが、井上の指揮と指導により覚醒し、大きく開花した。この公演の成果は、我が国の芸術水準の向上に寄与したことは確かでありそれは井上道義自身が公式 Web サイトで詳しく語っている。

#### ◆総括

これまで挙げたミューザ川崎シンフォニーホールの代表的な事業の他、ホール主催事業や貸館公演を合計して（コロナ禍で中止が続いた時期を除き）年間約 200 公演、観客数は約 20 万人が音楽を聴くために来場するコンサートホールとなった。これは小ホールを持たず、約 2,000 名収容の公共音楽ホールとして首都圏で大きな存在感を持つ音楽ホールとしては注目に値する。

開館 19 年間、ここまで成長できた要因を以下の 3 要素を揃え維持してきたことと分析する。

#### 【ハードウェア】

世界的マエストロ達が称賛  
最高水準の音響のホール  
そしてパイプオルガン

#### 【ソフトウェア】

フランチャイズ楽団  
ホールアドバイザー達  
市内 2 音大+首都圏 7 音大

#### 【各種援助とスタッフ力】

文化庁助成+川崎市財政  
周辺スポンサー企業+  
友の会 4500 名と市民協力

当ホールの国内外の評価として、以下の記事を紹介する

#### ・選択 2020 年 9 月号 「日本クラシック界 川崎の奇跡」

コロナ禍で一斉に長期休館となった令和 2 年 6 月半ば以降、劇場や音楽堂が手探りで再開した状況下で「サマーミューザは緊急事態宣言発出前の 3 月末に発表した内容は日程を除き、全面的に見直し。販売座席を 600 席に限定、ネット有料配信も行うハイブリッド音楽祭とされた。（中略）生誕 250 年のベートーヴェンだが、有観客での合唱抜き全交響曲連続演奏は、他に 7 月にシュトゥットガルトで三密回避で行われた記録があるのみ。真夏の川崎は、開催されなかった東京オリンピック文化事業を一手に引き受けたかのような、世界のベートーヴェン演奏の中心となったのである」と評価された。

#### ・音楽の友 2022 年 10 月号 約 2 万人を動員、夏祭りの復活！

コロナ禍 3 年目の夏も、期間中全国で毎日約 25 万人の感染者が発生するなか、全 19 公演を完遂したが、そのうち 7 公演をレポート。来場しての鑑賞だけでなく、インターネット配信でライブ映像配信も実施。多彩なプログラムを、「各オーケストラの個性がぶつかりあう、この音楽祭らしい熱演の数々が観客を魅了した」と高く評価された。

ミューザで行われる各公演はクラシック音楽のコンサートだが、音楽祭期間をはじめ、年間を通じて各公演ともそれぞれの出演者の特色や能力に寄り添いつつ、キャラクター付けを行っている。その各公演がミューザという同一会場で連続的に行われていることで、点と点が線になり、その公演を多様な観客が見て、聴いて、さらに SNS 等で発信する事により、線が面となって、さらに多くの市民へアピールすることでシビックプライドを醸成、『すべての人が音楽でつながるまち～共生社会の実現』が川崎で少しずつ実現している。

## (5) 持続性（平成30年～令和4年度 5か年分）

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### ■（事業運営）充実した主催・共催事業の実施

- ・ ミューザのミッションのもと、**5つの柱：「頂点」「広がり」「まちのシンボル」「未来」「多様性」**をふまえた多様な主催・共催事業を継続的に計画・実施することにより、コロナ禍でも多くの「ミューザファン」を継続して確保することができた。
- ・ 申請時には予期せぬ出来事であった新型コロナウイルス感染症拡大の中でも、ミッションをもとに「**今、できることを**」テーマに、初の試みである「**有観客+配信のハイブリッド型音楽祭**」の開催や**動画配信**など、事業内容をアップデートしながら継続して実施したことにより、様々な制限のある中、多くのミューザファンのお客様にご来場いただく事ができた。

	平成29年度		令和4年度	増加率
主催・共催入場者率	74%	→	76%	103%

#### ■（経営戦略）（ネットワーク構築）

##### (1) 収入の確保

##### ① ミューザファン（顧客）の獲得

- ・ 多彩で魅力的な主催・共催事業を開催することにより、コロナを経ても**ミューザファン（顧客）である友の会会員が増加**している。

友の会会員へのアンケート「友の会への入会・継続の理由」について、「魅力的な公演内容」が92%、「会員特典」が90%と上位を占めるなど、**ミューザ主催・共催事業への高い評価がうかがえる。**

多くの友の会会員を獲得することで、特典（例：主催共催公演の優先割引販売、会員限定イベントの開催）の利用者が増え、チケット売上の増加に繋がっていると考えられる。

	平成29年度		令和4年度	増加率
友の会会員数	4,139人	→	4,562人	110%
Web会員数	27,374人	→	53,011人	194%

##### ③ リピーター（顧客）の獲得

- ・ 毎年継続して公演来場者や施設利用者へお客様アンケートを実施し、集計結果や日々の利用者からの声を通じて、お客様の客層や傾向の分析、事業やサービス提供内容を検証し、その都度、改善を図ったことにより、高い入場者率や施設利用率を維持確保した結果、**リピーター（顧客）の継続的確保**につながり**安定した入場料収入や施設利用料を確保**することができた。（新型コロナウイルス感染拡大期間除く）

	平成29年度		令和4年度	増加率
貸館公演数	107回	→	125回	117%
施設利用率	99%	→	100%	101%

##### ③ ホールスポンサーの獲得

- ・ 市民や音楽文化活動へのご支援をいただく**ホールスポンサーの拡充に努め、ホールの収入確保に努めた。**法人会員については、昨今の世界情勢等の影響による経営難により、退会や協賛金の減額を申し出る企業があった一方で、ミューザの取組みに共感いただき、新規入会や増額を申し出てくださる企業もあった。また、個人会員については、寄附金文化の醸成や絶えずチャレンジし続けるミューザに対し、劇場運営に協力を申し出て下さる方などにより、**新規個人会員数の増加、寄付金の増額**など、改めて、ミューザがファンに支えられていることが見て取れる結果となった。

	平成29年度（件／金額）			令和4年度（件／金額）		増加率（件）
法人会員	45	13,850千円	→	38	11,400千円	84%
個人会員	33	1,140千円	→	58	1,790千円	176%

##### (2) ステークホルダーとの関係構築

- ・ ミューザ川崎シンフォニーホールは、川崎市のブランドメッセージ「Colors、Future！（多様性は可能性）」を基に、**人と人がつながり、文化芸術を軸とした「まちづくり」に寄与**している。

多様性のある社会を実現するために、主催事業を通じてミュージアがハブ機能を担うことにより、近隣商業施設・ホテル・企業等がホールの呼びかけを契機に連携し、ホールの外でも協働の輪が広がっている。

**音楽やホールが地域を結びつける接着剤として機能し、地域経済の活性化に寄与している**と言える。

### (3) 行政との綿密な連携

- 行政（川崎市）所管課と月1回以上のモニタリングを実施することにより、事業や施設管理運営の進捗情報共有だけでなく、設備の老朽化や不具合、ホール運営上の課題や問題点などホールの現状を共有し、今後の施設の在り方を協議しつつ、**中長期修繕計画の策定や施設保全に関する財源確保**などに努めている。

### (4) イレギュラーな事態への対応

- 世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大による施設の休館、公演の中止等によるチケット代金や施設利用料・設備使用料の返還、感染症拡大防止対策用のガイドライン作成、施設の改善、備品の設置等、様々なイレギュラー対応を余儀なくされたが、状況に応じた事業内容の変更や、対応に伴う費用や機会損失の補填等の財政的支援についても設置者である市と綿密な協議を重ね、都度、収支状況を確認しながら、**施設の運営に大きな支障が出ないよう、調整を図り適切かつ迅速に経営管理**を行った。

### (5) 課題の明確化と情報の共有

- 四半期毎に、各課による「**課題と重点取組**」を作成・検証することによりPDCAを実施し、全職員にて情報共有することで全体での課題の把握、認識の統一を行い、ビジョンや目標を達成した。

### (6) 「ミュージアスタッフ」としての取組

- 新たな課題に対しては、**課や会社を超え、委託業者を含むプロジェクトチームを作成するなどのネットワークを構築**し、各自、「ミュージアスタッフ」として誇りを持ち、事業計画の実施や更新・サービス向上を図った。  
(プロジェクト例：サービスアップ、危機管理、新型コロナウイルス感染症対策、ホームページ改修 等)

## ■ (人事戦略)

### ① 雇用環境の整備

- 職員の雇用条件により安定かつ継続した雇用が確保されていなかった状況を改善すべく、就業規則の改定等による**長期的・継続的な雇用環境づくり**（職員の長期雇用への切替を含む）、賞与制度の導入、女性従事者が多い職場ならではの就業環境向上に取り組んだ。その結果、職員が安心かつ継続して勤務できる環境づくりを整備され、有能な人材を継続的に確保することができ、安定したホール運営を行うことができた。

特に女性従事者については、期間中、川崎市文化財団職員5名が産休・育休を取得後に復職、育児との両立を図ることができるよう、勤務シフト等に配慮をしながら働きやすい環境を整えることにより、現在も中心的人材として、ホールの運営を担っている。(他、JV2社においても産休・育休取得職員は多数)

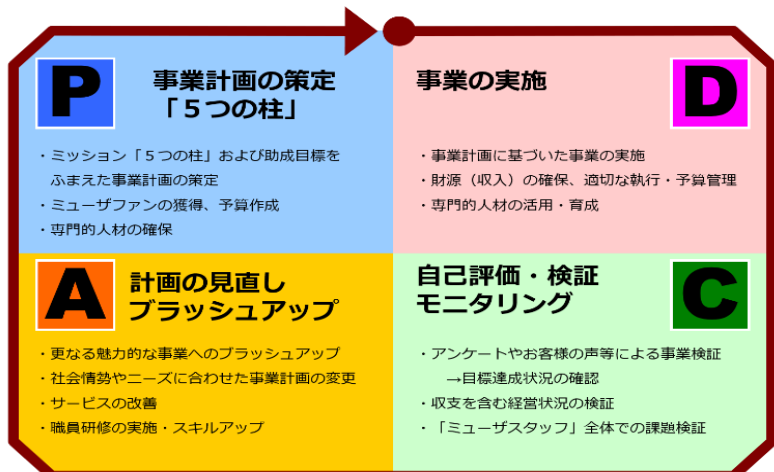
### ② 職員研修の実施による人材育成

- 職場での各テーマに基づいた専門的な研修実施及び外部講習受講による**職員のスキルアップ**を図った結果、主催事業等の充実やより安全かつ魅力的な施設運営に反映し、入場者・利用者確保に繋げている。

(参考) 主な研修内容：バリアフリー関係、危機管理、労務、施設管理、事業

- シンポジウム等に講師として当ホールでの取り組み等の事例の発表や、ホールへの視察を受け入れることにより、音楽業界全体の活性化や音楽業界に関わるスタッフのスキルアップの一翼を担い、人材育成に寄与した。

前述の各項目を継続することで安定した組織活動が展開され、持続的にアウトカムが発現すると考えている。



## 自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

5年間の「魅力的な事業実績」「安全な施設管理」「安定した施設運営」により、お客様の満足度は高い状態で、継続・維持している。

今後も、収入見込みに近いチケット収入や施設利用料収入を継続して確保していくことをベースに、債務負担行為による指定管理料の安定した獲得、事業積立金の実施、効率的な執行等の経営努力による事業経費の削減、事業収入を獲得するための友の会会員の確保、外部資金調達の大きな資金源となる企業や個人からの寄付「ホールスポンサー制度」の拡大、民間企業からの協賛金確保、主催事業実施に伴う助成金の確保など、様々な面からアプローチを図ることにより、健全な収支バランスを保つように努めていく。

そして、このような効率的な事業執行等で生じた利益は、将来の利用者サービスのために積み立て、更に利用者サービスや新たな事業実施等に還元することにより、公共ホールとしての役割を果たし、更なるホールファンを増やしていく好循環を生み出していく。

また、川崎市の取組「パラムーブメント」と連動し、ミュージアでのインクルーシブな社会への取り組みを、ソフト面（事業の実施やダイバーシティスタッフの配置等）・ハード面（バリアフリーや外国人への対応等）両面にて継続して実施していくことにより、ミュージア川崎シンフォニーホールが「多様性」における中心的施設となっていく。

そのことにより、「音楽のまち・かわさき」の拡大や更なる市民の参加につながり、シビックプライドを向上させ、最終的には、川崎市が目指す「最幸のまち・かわさき」と同じく、ミュージア川崎シンフォニーホールの存在が全ての市民の幸せに繋がり、さらに首都圏、全国へと広がっていくものと期待する。

ミュージア川崎シンフォニーホールは、ミッションである『音楽のまち・かわさき』のシンボルとして、『音楽ですべての人がつながるまち～共生社会の実現』を目指し、今後も持続的なアウトカムの発現・定着に繋げていく。